

第4期中期目標期間(令和5年度)実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校)	令和5年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校)
<p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県下の中学校、滋賀県・石川県の入試実績のある中学校には、在学生及び卒業生の近況報告をし、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。さらに、本校の紹介、学科紹介のビデオをHPに掲載する。 ・国公立の高等専門学校が連携した合同説明会に参加する。 ・福井県中学校校長会に直接、本校の現状説明および広報を行う。 	<p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に福井県中学校校長会(福井市進明中学校校長)に、本校の現状説明及び広報を行った。 ・4月から5月にかけて、次年度入試について、福井県内中学校62校を訪問し、説明と理解を求めた。 ・6月下旬から7月にかけて、福井県:70校、滋賀県:36校、石川県:18校の中学校訪問を行い、入試について、在校生、卒業生の近況、本校の現状を説明した。このとき、カレッジガイドを中学3年生の教室、マンガ(福井高専からはじまるキミの未来)を中学2年生の教室に置いていただくこと、リーフレットを中学1年生生徒全員にお渡しいただくことを依頼した。 ・学校の公式YouTubeチャンネルを開設し、各学科の紹介動画を開示した。
<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生(女子中学生を含む)及び保護者、中学校教員等を対象としたオープンキャンパスを9月に2日間開催する。さらに10月～11月に中学生(女子中学生を含む)及び保護者、中学校教員等を対象とした入試説明会を開催する。各中学校の高校説明会等に積極的に参加する。 ・本校カレッジガイド及び学校紹介リーフレットを福井県・滋賀県の全中学校に配布、さらに、石川県及び京都府の一部の中学校にも配布し広報活動を行う。 	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月23、24日にキャンパスツアー2023を開催し、中学生が369名、その保護者が414名参加した。 ・入試説明会を本校、福井県各所、滋賀県、石川県において開催し、参加者は、中学生230名、保護者249名、教員48名であった。高校説明会には、6校の中学校に参加した。 ・カレッジガイドを福井県:2,067部、滋賀県:523部、石川県:122部、その他の県51部、学校紹介リーフレットを福井県:9,526部、滋賀県:7,053部、石川県:3,219部、その他の県51部を配布(送付)した。
<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校オープンキャンパスなどで、説明役の学生に女子学生を積極的に登用し、中学生(女子中学生を含む)その保護者に優秀な女子学生の存在を知らしめ、広報する。 ・女子中学生向けのパンフレットを作成する。 	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月23、24日に開催したキャンパスツアー2023において、延べ49名の女子学生が各学科実験補助学生、交流コーナーの学生、プラカード学生として参加した。 ・女子中学生向けのパンフレットを作成した。
<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な広報活動として、本校ホームページの英語版の作成を進める。 	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「理念・教育目標」、「3つのポリシー」、「学科、専攻科」については英語版ページを既に公開しており、今後は更なる充実を図っていく。 ・12月8日に外国人留学生との懇談会を開催し鯖江市国際交流協会等を通じた広報活動を行った。
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用について、入学試験時の出願の際だけでなく、オープンキャンパスおよび入試説明会の申し込み時にもインターネットを利用することで中学生や中学校の先生方の負担を軽減する。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの申し込みおよび入試説明会の申し込みは、インターネットを利用したシステムで実施した。 ・複数校志願受験制度の実施に向けた検討を開始した。
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般科目の教育課程表および学際コースの教育課程表に関して検討を加え、新しい教育課程表を作成する。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、校内の将来構想に係る委員会での提案を勘案しつつ、関係部会・委員会と検討を重ねる。具体的な専攻科改組案の作成段階に至った際には、法人本部の関係部署と連携をとり、指導助言を受け進める。 	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科の教育課程表において、一般科目の一部と学際カリキュラムを改訂した。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、校内の将来構想に係る委員会からの提案があった時点で検討を重ねることとしている。

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を見据えながら、大学・大学院との交流機会を設けつつ、連携教育プログラムの構築について精査し検討する。また、学生の課題解決力向上に資することを目指し、インターンシップ及び県内の連携プログラムの実施を通じて大学および地元企業等との共同教育を推進する。これらの実施に際しては、本校卒業生・修了生の参画及び本校実務家教員(含技術職員)を積極的に登用する。 ・本科では、4年生全員参加を前提としてインターンシップの受け入れ先の確保を目指す。専攻科1年生対象インターンシップは必修で、特別研究指導教員が研修先を斡旋する方法を取ることにより、研究に関連した内容や、課題解決型などのキャリア形成に繋がる内容の研修を目指す。 ・インターンシップ中は、研修先で研修日誌のチェックや、コメントをしていただくことにより、研修先と連携した共同教育を行う。また、教員が研修中に研修先を訪問し、実習学生の状況を把握するとともに、求人関連の情報収集を行う。 ・インターンシップ後は、報告書を作成し、報告会を実施する。また、専攻科生の報告書は研修先にもチェックしていただく。 	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻科1年生を対象とした大学院研究室訪問を6月に実施し、参加学生は一人2～3研究室を体験した。高専と大学との連携教育プログラムについては課題もあり、具体的な展開には至っていない。 ・学生の課題解決力向上に資することを目指して実施しているインターンシップでは、国内でのインターンシップに加えて、コロナ禍の影響で中止していた海外インターンシップを再開し、8月～9月にかけて専攻科1年生3名をベトナムの企業3社にそれぞれ派遣するなど積極的に推進している。 ・県内の連携プログラムの実施を通じて大学および地元企業等との共同教育については、後期(9月末から)の創造デザイン演習において、地元企業に加えて今年度新たに自治体の参加も実現しており、推進している。なお、専攻科の科目については本校実務家教員のほか、外部の実務家を登用している。創造デザイン演習では実務経験のある2名(内1名は本校卒業生)の本校技術職員に3D-CAD及び3Dプリンタの演習を依頼し、内部の教育資源も有効に活用している。 ・本年度は、8月10日から9月17日までの夏期休業期間中に、本科4年生187名、専攻科1年生32名がインターンシップを実施した。専攻科1年生の内3名は海外(ベトナム)にてインターンシップを実施した。また、学生のインターンシップ期間中には、教員が研修先を訪問し、実習学生の状況を把握するとともに求人関連の情報収集を行った。 ・インターンシップを行った本科4年生は、本科3年生及び学科教員に対して10月30日に報告及び審査会を開催した。 ・インターンシップを行った専攻科1年生は、専攻科進学予定の5年生及び学科教員に対して10月4日に報告及び審査会を開催した。なお、専攻科生の実習先へ提出する報告書は、11月上旬に送付を完了した。
<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外インターンシップ等による学生の交流・研修の充実を図る。 ・様々なコミュニケーションツールを併用した各種海外研修プログラムの充実を図る。 	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に本校専攻科1年生3名がベトナムにて約1か月のインターンシップを修了した。 ・2024年3月の本校シンガポール研修においてナンヤンポリテクニクの学生との文化交流プログラムを実施、今後の協定締結にむけてさらなる交流を深めていくことで合意した。 ・11月に本校教員1名が学生5名を引率して協定先である重慶市中薬研究所を訪問し教育活動・研究交流を行った。 ・2023年11月に本校教員3名、2024年3月に本校教員2名がタイ国プリンスオブソクラ大学工学部ブーケットキャンパスを訪問し協定締結を視野に入れた今後の積極的な交流について前向きに検討していくことで同意した。
<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混合型学生寮などを積極的に活用し、イングリッシュカフェや交流会、報告会などを実施する。 ・ネイティブ英語講師に触れる機会を積極的に設けるとともに、研究論文の英語表現を実践する機会を設ける。 	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日に鯖江青年自然の家との共同による、地域住民を対象とした本校国際寮企画グローバル交流会を実施した。 ・10月21日に学寮内食育講座における留学生との交流会を実施した。 ・11月15日に前期に海外留学・インターンシップを経験した学生の海外活動報告会を全学生および全教職員を対象に実施した。 ・ネイティブスピーカー及び実務専門家との協働による専攻科2年生全員の特別研究発表英文アブストラクト作成支援講座を実施中である。
<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専体育大会やロボコン、プロコン、デザコンなど各種競技・コンテスト、地域と連携したプロジェクトなどへの積極的な参加を奨励する。 ・今年度主管となる全国高専プログラミングコンテスト2023について、準備を進め、開催する。 ・「福井高専ガリレオコンテスト」を実施することで、企画立案と実践ならびに報告に至る一連の能力の育成を図る。 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図る。 	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上部、水泳部、卓球部、ソフトボール部の学生が令和5年度福井県高等学校春季総合体育大会(6月)で入賞し、北信越高等学校総合体育大会(6月、8月)に出場した。 ・第58回北陸地区高等専門学校体育大会(7月)では、女子バドミントン、水泳、サッカー、陸上競技が全国大会出場を決めた。8月に關東信越で開催された全国高専体育大会では、女子バドミントンが団体準優勝、ダブルスでも準優勝、陸上では三段跳びなどで入賞、水泳では、100m自由形と200m自由形で優勝、また100m平泳ぎや4×100mドレーリレーで2位、4×100mフリーリレーでも4位入賞を果たした。特に100m自由形では個人3連覇ということで、特別表彰が授与された。 ・アマチュア無線研究会が、第34回全国高校アマ無線コンテストの「マルチオペレータ・7メガヘルツ」部門で優勝(6連覇)を果たした。同研究会所属学生がチェコで開催された世界大会に出場した。 ・第33回全国高等専門学校プログラミングコンテストは、10月14日から15日にかけて、福井県サンドーム福井を会場に開催された。福井高専からは競技部門と自由部門で出場し、競技部門では初優勝を果たした。また自由部門では敢闘賞を受賞した。 ・アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト2023東海北陸地区大会は、10月29日(日)に石川県金沢市の金沢工大体育館で開催された。10キャンパスから全20チームが出場した。福井高専からは2チームが出場したが、残念ながら入賞は逃した。 ・全国高専デザインコンペティションは、11月11日から12日にかけて、舞鶴市総合文化会館ならびに舞鶴赤れんがパークにて開催された。本校からは構造部門に2チームが参加したが、残念ながら入賞は逃した。 ・第2回福井高専ガリレオコンテストが開催され、全7件、総額637,000円分が採択された。12月に報告会を開催し、審査の結果、最優秀賞1件、優秀賞1件を表彰した。 ・7月15日に開催された高等学校将棋竜王戦福井県大会A級の部で、囲碁将棋部の学生が準優勝を果たした。

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>
<p>③-2 ・学生のボランティア活動を推奨するため、活動機会の情報を提供する。毎年実施しているクリーン大作戦を継続的に実施する。また3年間実施できていない保育ボランティアなどの活動を再開する。 ・学生による顕著なボランティア活動に対する表彰制度を積極的に周知する。</p>	<p>③-2 ・10月26日(木)放課後より、クリーン大作戦を実施した。学校周辺の3コースに限定し、ゴミ拾いを学生会の厚生部門14名と教員で行った。 ・保育ボランティアは、鯖江市内の2カ所の保育園にご協力をお願いし、9月4日から12日にかけて11名の学生が参加して行った。全員9時から16時までの7時間、ボランティアに励んだ。 ・5月18日に寮生40名が学寮周辺地域(吉野瀬川両岸)の清掃(ゴミ拾い)ボランティアを実施した。</p>
<p>③-3 ・トビタテ! 留学JAPANへの応募を積極的に働きかける。 ・学生のISTS2023への参加を積極的に促す。</p>	<p>③-3 ・本科3年生1名がトビタテ! 留学JAPANに採用され9月に米国シリコンバレーにて約1か月間の研修を行った。</p>
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。</p>	<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領の中に「博士の学位を有する者」という項目を掲げている。令和5年度は、専門科目について機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の教員公募を実施した。</p>
<p>② ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、クロスアポイントメント制度の利用について、本校の教員人員枠を確認しながら検討をすすめる。</p>	<p>② ・クロスアポイントメントは人員枠を活用することから、教員人事委員会にて各学科、教室に周知し、昇任、採用と同時に検討を実施している。令和6年度の人事計画の調査において、クロスアポイントメントについても改めて周知を図った。</p>
<p>③ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 ・また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。</p>	<p>③ ・総務・企画委員会の中にダイバーシティ推進専門部会を新設し、機構本部等からのダイバーシティに関する通知等を校内により積極的に周知した。 ・女性教員の働きやすい職場環境づくりの一環として、盗撮等犯罪対策としてトイレブースの個室化を計画した。令和5年7月～8月の間に機械工学科1.3階及び物質工学科1.3階女子トイレのトイレブース間上部及び扉上部の閉塞工事と設備工事を実施した。 ・同居支援プログラムにより、本年度に電気電子工学科教授1名を受け入れている。 ・女性教員の出産に際して、当人の産前・産後育児休業とともに、配偶者(本校教員)の産後パパ育児及び育休を奨励した。</p>
<p>④ ・常勤・非常勤を問わず、ネイティブの教員の増員を検討する。</p>	<p>④ ・令和5年度中の学科及び一般科目の常勤教員公募では、計3名(韓国、スリランカ、中国各1名)の応募があり、昨年の1件から微増した。本校としては都度積極的に採用を検討したが、他日本人候補者が公募要件(専門分野、業績等)により合致していたため、採用に至っていない。非常勤のネイティブ教員の確保に引き続き努める。なお、機構本部「グローバルエンジニア育成事業」の申請を行い、関係教員の確保を検討している。</p>
<p>⑤ ・高専・技科大間の教員交流、高専間交流について、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供する。同居支援プログラム制度、高専間配置換え希望照会等についても周知を徹底し、必要に応じ、受入、派遣ともに十分に対応する。</p>	<p>⑤ ・高専と技科大間の人事交流については、本部からの募集があり次第、学内に積極的な情報周知を実施している。 ・内地研究員制度により、本校教員1名を外部研究機関に派遣した。 ・同居支援プログラムにより、本年度に電気電子工学科教授1名を受け入れている。【再掲】</p>
<p>⑥ ・FD講演会・FD研修会を企画開催し、教職員の資質向上に対するモチベーションの涵養を図る。 ・新任教員・中堅教員を対象とする研修プログラムを企画実施する。 ・アクティブラーニング等に関する研修会や全国高専フォーラムへの積極的な参加を促し、他高専との情報共有を図る。</p>	<p>⑥ ・9月13日にFDワークショップ「教育と研究のバランスの話」を開催し、15名の参加があった。10月25日及び11月22日にFD研修会「教務システム運用説明会」を開催し、延べ113名の参加があった。3/7に令和5年度FD研修会(PROGテスト解説会)を開催し、24名の参加があった。3/14に令和5年度FD研修会(WebClass講習会)を開催し、36名の参加があった。3/15にFDワークショップ(授業方法)を開催し、19名の参加があった。 ・新任教員・中堅教員を対象とする研修プログラムを実施している。 ・全教員に対し、アクティブラーニング等に関する研修会や全国高専フォーラムへの積極的な参加を促した。</p>

**令和5年度 年度計画
(高専名：福井工業高等専門学校)**

**令和5年度年度計画 実績報告
(高専名：福井工業高等専門学校)**

⑦
・教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員表彰対象者として推薦する。また、非常勤職員を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。

(4) 教育の質の向上及び改善
①
・1年生のキャリア教育の一環として入学前教育、初年次教育として、「自己紹介」「高専で学びたいこと」、模擬試験を実施し、スタディサプリのシステムを利用した自学学習支援、ようこそ1年生、キャリア説明会、学科再選択制度説明会等を実施する。
・学習支援室について、組織的に成績不振の学生のケアを実施する。
以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。

【機械工学科】
・「スタートアップ教育環境整備事業」で申請した設備の導入と実験実習への適用について、具体的な検討を行う。
・「Society 5.0型未来技術人材」育成事業(COMPASS 5.0)協力校として得た知見と教材を、「社会のニーズに応えること」と「教育方法や教材などの共有化」という観点から、ものづくり教育へ適用する方法について具体的な検討を行う。
・令和6年度からの改訂モデルコアカリキュラムへの対応に向けて、教育課程・授業内容・系統図の見直しについて検討する。
・改修された実習工場を活用した実験実習について検討を行う。
・上記計画、令和4年度までに行ってきたものづくり教育の推進、および、令和4年度に見直したアドミッションポリシー等を総括し、学科の魅力伝える広報等の方法についてワーキンググループで検討を行う。

【電気電子工学科】
・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法について、継続的に検討する。
・令和4年度に実施した、5年次までを対象とした実験スキル評価シートを用いるモデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価に基づき諸事検討を行う。
・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、継続的に確認し、情報共有を行う。
・CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握を継続的に行う。
・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を継続的に実施する。
・学科内のFD活動を推進するために電気電子工学科会議で継続的に検討し、学科内のFD活動内容の収集と情報共有を行う。

⑦
・機構本部主導の教員顕彰では、厳正な学内審査のもと、職務に精励し、功績が顕著な者を対象者として推薦している。また、校内でも校長による表彰制度を設けており、教育、課外活動指導、研究、地域連携、事務改善等、幅広い職員を表彰し、勤務意欲の高揚、職場環境の活性化を図っている。同表彰制度に則り、令和5年度は2名の教員を表彰した。

(4) 教育の質の向上及び改善
①
・キャリア教育の一環の入学前教育、初年次教育として、「自己紹介」「高専で学びたいこと」、ようこそ1年生、キャリア説明会、学科再選択制度説明会等を実施した。
・学習支援室について、組織的に成績不振の学生のケアを実施した。
(数学)7/5:受講者52名、TA13名、教員4名 7/12:受講者47名、TA8名、教員4名 7/19:受講者60名、TA4名、教員5名
11/1:受講者51名、TA2名、教員3名 11/15:受講者52名、TA2名、教員4名 12/20:受講者53名、TA0名、教員5名
1/31:受講者25名、TA2名、教員4名
(物理)6/29:受講者39名、TA0名、教員1名 7/6:受講者40名、TA0名、教員1名 10/19:受講者26名、TA0名、教員1名
11/2:受講者19名、TA0名、教員1名 11/9:受講者16名、TA0名、教員1名 11/16:受講者18名、TA0名、教員1名
1/18:受講者23名、TA0名、教員1名 1/25:受講者21名、TA0名、教員1名 2/1:受講者19名、TA0名、教員1名
(化学)7/3:受講者15名、TA0名、教員1名 11/7:受講者20名、TA0名、教員1名 1/22:受講者9名、TA0名、教員1名
(学習会)7/18:受講者24名、TA3名、教員9名 7/25:受講者22名、TA3名、教員4名 11/13:受講者23名、TA0名、教員5名
11/20:受講者24名、TA1名、教員4名 1/15:受講者25名、TA0名、教員1名 2/5:受講者19名、TA0名、教員4名
以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。

【機械工学科】
・「協働ロボット実習システム」は導入済みであり、導入教育も完了している。活用については、令和6年度に実施される生産システム工学実験1(専攻科1年:後期)にて、本施設を利用した実験を実施する予定であり、準備を進めている。また、本施設は、オープンキャンパスなどで、高専の魅力を伝えるために利用する予定である。
・COMPASS 5.0 ロボット分野の予算で整備した教材を利用した実習「メカトロニクス実習(3年:後期)」は実施済みである。また、本結果を受けて、同教材を利用した実習、知能機械演習(4年:前期)を実施する予定であり、準備を行った。
・改訂モデルコアカリキュラム(令和6年度)に対しては、現教育課程との対応を調査し、充足点/不足点を確認済みであり、問題が無い事を確認済みである。
・機械工作実習1(2年:通年)、機械工作実習2(3年:通年)の実施に必要な準備を行った。
・学科広報WGにおいて、学校全体の改組における学科の位置づけや方向性(情報教育の拡充など)について検討を行い、学校側に提出した。アドミッションポリシー等については、現時点では問題が無い事、改組時に大きな変更が見込まれることから、本年度の見直しは見送ることとした。入学者確保に向けては、「協働ロボット実習システム」を活用した広報の計画について準備を行った。

【電気電子工学科】
・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法について継続的に検討を行っており、改善の必要があるものには適宜対応した。
・令和4年度に実施した、5年次までを対象とした実験スキル評価シートを用いるモデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価を行っている。前・後期合わせ、特に問題のあるケースがないか注視し、検討を行い、対応表の修正を行った。
・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、継続的に確認した。
・CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握を継続的に行った。具体的には、当科専門科目「計測工学1」で実施した。
・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を継続的に実施した(本校による各科目アンケート調査)。
・学科内のFD活動を推進するために電気電子工学科会議で継続的に検討しており、活動内容の収集と情報共有を行った。
・各科目間の到達目標の整合性については、特にモデルコアカリキュラムに関し総合的に判断し、対応表の修正を行った。
・モデルコアカリキュラムにおける到達度評価だけでなく、今後は当科独自の到達度設定も検討すべきではないか。
・学習状況調査及び卒業時の満足度調査のための各科目アンケートを行う際、選択科目では実際に授業に出席していない学生も調査対象としているが、この妥当性について検討する必要があることを、関係の委員会に伝えた。

令和5年度 年度計画
(高専名： 福井工業高等専門学校)

令和5年度年度計画 実績報告
(高専名： 福井工業高等専門学校)

【電子情報工学科】
・モデルコアカリキュラムの改訂にあわせ、現状の学科シラバスの修正について検討を行う。
・創造性やデザイン能力を育む取り組みとして、ICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組みを継続する。また、その成果を様々なコンテストや発表会で発表していく。
・高専プログラミングコンテストの主管を通し、他高専での実践的なシステム開発など創造性・デザイン能力を生かす方策などの情報収集を目指し授業改善に結びつける。
・R4年度に COMPASS 5.0-IoT分野において入手した教材を実際の実験などで利用し、実践を目指す。
・電子情報工学科は、R5年度はCBTのレビュー担当し学科全体でレビューに取り組む。またCBTを学生の到達度確認として利用拡大を検討する。

【物質工学科】
・物質工学科におけるグローバル化・高度情報化社会ニーズを踏まえた教員の教育研究活動の活性化と学生教育への還元のために、学科教員の研究力(研究内容・研究水準・研究環境)及び教育力の質的向上と科研費等外部資金獲得に向けた産官学連携共同研究や地域連携教育プロジェクトを推進する。
・学科の魅力向上と持続・発展を図り、重要課題である入学志願者確保とその資質・学力水準維持のためのより効率的な具体的方策を検討し、重点的に実施する。

【環境都市工学科】
・教育、研究、社会貢献に関する将来構想と魅力向上策を立案するワーキンググループ(WG)の活動において、教育の質の向上と改善のための取り組み内容を継続的に検討する。
・3年次以降のBYODを利用した学習環境を活用し、学生のスキルアップを図る。また、スタートアップ予算で準備したデバイスを用いて実験実習のカリキュラム改善を行う。
・学生の資格取得に向けたフォローアップを行う。
・卒業研究において、地域企業や行政が直面する課題の解決を目指したテーマに取り組む。

【電子情報工学科】
・MCC改訂に合わせ、シラバス改訂が必要か確認作業を行い、若干の修正を行った。
・本校卒業技術者の支援を受けながら、第34回プロコンに課題2チーム、自由2チーム、競技1チームが応募し、本選に自由1チーム、競技1チームが参加することができた。さらにDCON2023に学生が応募し、第一次審査を通過することができた。
・10/14、15にサンドーム福井で第34回プロコンが開催され、大きなトラブルもなく主管校業務を終えることができた。競技部門にて福井高専「蟹高専」チームが優勝、自由部門で「チャリレコ」にて敢闘賞を受賞した。加えて、「チャリレコ」は、福井ソフトウェアコンペで優勝した。
・2EI後期実験「モノのインターネット体験」にてCOMPASS 5.0 IoT での機材を活用した実験を開始できた。
・各高専分担160問のうち福井高専では163問をレビュー。102%達成した。4EI情報構造論、4EI計算機構成論では、専門科目のCBT利用を行った。

【物質工学科】
・教員の研究力の高度化と教育力の質的向上及び外部資金獲得に向けた「産官学連携共同研究」や「地域連携教育プロジェクト」として、国際共同研究「画像診断バイオセンサシステムの開発」(福井大学・台湾成功大学)、及び共同研究「電気化学的促進酸化プロセスを用いたマイクロプラスチックに含まれる着色剤分解技術の確立」「新規光有機触媒を用いた光脱炭酸反応の開発」(福井大学)、「ラン藻を用いた有用物質生産に関する研究」(金沢大学)、「大腸菌における有用物質生産に適した鉄硫黄タンパク質発現系の構築」「酵母シグナル伝達を用いたEGFRシグナルを阻害する分子スクリーニングシステムの構築」(神戸大学)、「河川流域におけるプラスチック微細片の生成・流出機構の解明とモデル化」(愛媛大学)、「セルロースと水溶性高分子及びタンパクとの相互作用機構の解明」(旭化成(株))、「滑油劣化モニタリングのIoT化に向けての研究」(出光興産(株))、「乳酸菌資材添加による牛糞堆肥の製造」(ベルテクス(株))、「マルカワ味噌の抗酸化能評価試験」(マルカワみそ(株))、「新規多官能チオールを活用」(旭化学工業(株))、ならびに学内共同研究「和紙文化の持続的発展を目指す和紙原料植物トロロアオイの栽培・粘液データベース構築」「レーザ照射によるガン近傍にて駆動する新規QOL向上PDTシステムの構築」、教育プロジェクト「北陸地区国立大学学術研究連携プログラム:北陸地区高専大学連携グリーンイノベーション研究会」(金沢大学・福井大学、11月16日)、「北陸電力志賀原子力発電所見学会」(北陸原子力懇談会、9月25日)、「放射線計測実習」((一財)日本原子力文化財団・名古屋大学、10月24日)、「国際原子力人材育成イニシアティブ事業研修」(カナダマクマスター大学、8月29日～9月3日)等、教育研究活動の活性化を推進した。
・学科の魅力向上と効果的な広報活動・情報発信、特に入学志願者の確保とその資質・学力水準維持のための具体的方策として、学科パンフレットの刷新(7月)及び学科紹介ビデオ動画の作成(オープンキャンパス配信・ホームページ公開、9月)、ならびに公開講座「科学実験」(9月10日於福井高専、小中学生19名・保護者19名参加)、出前授業「親子理科実験講座」(7月15日於福井市木田公民館、福井市立木田小学校2～5年生44名・保護者34名参加、(公財)中谷医工計測技術振興財団助成)、「科学実験講座」(6月9日於あわら市立芦原中学校、3年生全員参加)、「親子でわくわく子ども教室」(8月21日於越前市生涯学習センター、小学生20名・保護者10名参加)、「親子科学実験&グローバル交流会(福井高専連携主催事業)」(10月1日於福井県立鯖江青年の家、小学4～6年生20名・保護者10名参加)、「科学実験」(10月25日於鯖江市立進徳小学校、4年生45名参加)、「科学実験」(11月12日於永平寺町立御陵小学校、1～6年生100名参加)等を重点的に実施した。今年度の入試倍率は0.93倍であり、実質的には前年度・前々年度実績(1.23倍・0.90倍)レベル維持に至った。

【環境都市工学科】
・学科の魅力向上を目指して、現学生の投票により作業服のリニューアルを行った。また、入学者向けの学科紹介用YouTube動画を配信した。再生回数は他学科よりも多く、学科の魅力を広くアピールすることができた。
・スタートアップ教育環境整備事業の予算で準備したデバイスを用いて実験実習のカリキュラム改善に取り組んだ。また、学際カリキュラムの見直しと併せて、R6年度入学生より3年生に空間情報学を新設(3D点群測量等)、メンテナンス工学を必修化、建築士受験対応で木質構造を新設、学際環境保全工学を5年生の選択科目に戻すよう改訂した。
・環境都市工学科独自で技術士一次試験等の合格者に対して、受験料の半額を補助する制度を設けている。また、R5年度より技術士一次試験等の合格者に対して特別学修(5年次選択科目)の単位認定を行っている。R5年度の技術士一次試験(建設部門)合格者は3名であった。
・2月29日、3月1日に卒業研究発表会を行った。36編中、半数以上の19編が福井県内をフィールドとした研究活動を行っており、地域の課題を解決するテーマに取り組むことができた。

令和5年度 年度計画
(高専名： 福井工業高等専門学校)

令和5年度年度計画 実績報告
(高専名： 福井工業高等専門学校)

【数学】
・今年度から導入されるWebClassや、1年生でのスタディサプリなどを利用しながら、授業におけるその効果的な活用方法を検討する。
・ICT活用、グループ学習、Web教材や授業動画利用などの授業実践により、主体的な学びの環境を整え、基礎学力の定着を促す。
・学力不振の学生に対しは、学習支援室と連携しながら支援を行う。
・これまで行ってきた数学検定の受検推奨、数学カレンダーの作成などにより、継続的に学生の数学に対する興味関心を高めるよう努める。
・数理モデル的思考を育成する教材の開発およびその活用について検討する。

【物理】【地学】
(物理系)
・1年生成績不振者向けの補習を継続する。
・2年生物理ではWebClassやスタディサプリオンラインツールを活用した学習の実施を試みる。
・3年生は夏季休業中の総復習を行い、知識の定着とCBTでの理解度の確認を行う。
・4年生応用物理IIの実験設備で老朽化したものについて修繕・更新を行う。
(地学系)
・複合災害に関わる地球科学へ、より関心を高めるようにする。

【化学】【生物】
・化学では今年度も授業中、問題集の問題をさせて、その日の授業内容を理解させるようにする。また、試験が芳しくない場合や長期の休み後と、教科書の各章終了後は課題の提出を実施し、学力レベルを維持する努力をする。生物では、より興味も持たせるよう最新の生物学についての話題を講義に取り入れ、さらに、内容の区切りごとに小テストを実施することで内容の定着を促す。

【国語】
・キャリア教育的取り組みの一環で、2年生の「手紙の書き方体験授業」、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を継続する。
・弁論大会などの学校行事、校友会誌の編集・発行にあたって、学生への指導を含めた支援を継続する。
・授業では、学生が主体となって臨める環境作りを行う。発表や議論、グループワークを通して、語彙力や表現力を育成する。
・5年生の選択必修科目の授業は、日本文学論と言語文化特講を開講する。日本文学論では文芸作品の鑑賞、言語文化特講では古典文学の講読により、それぞれ日本語や日本文化について理解を深めさせるとともに、言語運用能力を伸ばす授業を行う。

【社会】
・科目担当者間で担当科目の到達目標や学習事項、レベル設定、教科書について継続的に議論し、授業実践にあたっての課題を精査する。
・昨年度から開講されている「工学倫理」の実施状況について、学科担当者をはじめ関係各所と連絡をとりつつ、授業内容やシラバスの改善を継続的に行う。
・改訂版モデルコアカリキュラムに対応した授業実践を目指し、科目担当者間で協議を行う。

【数学】
・1年に対して、試験前や長期休暇の課題、また2年に向けての春休みの課題などにスタディサプリを利用し、課題を配信した。
・それぞれの担当教科で、DESMOS等のアプリを適宜、使いながら、確認や探究を行った。
・1年生の三角関数のところの、解説動画が見れるようにTeamsに案内した。
・今年度も引き続き、夏休みに「関数グラフアート」の課題を課し、10月の高専祭で展示を行った。
・8月21日(月)に、「第14回関数グラフアートカンファレンス」を開催した。
・8月26日(土)鶴見大学で行われた、T³JAPAN年會に数学科・応用数学科の教員が参加した。
・低学年の補習については、1、2年生を対象に、前期は7/5、12、19の3回、後期は11/1、15、12/20、1/31 の4回を実施した。例年のように、本科4、5年生および専攻科学生から募集したTA(ティーチング・アシスタント)を活用した。
・6月17日(土)に第23回グラフ電卓研究会をハイブリッド形式で実施した。17名(うち4名がオンライン)の参加者があり、9件の発表があった。
・6月24日(土)、1月27日(土)に数学検定を本校で実施。受験者数はのべ4名(2級1名、準2級3名)が受験し、全員合格した。
・科研費B「数理モデルを立て分析する野力を育成する数学教材と授業法及びカリキュラムの開発」が採択され、その研究グループのメンバーとして本校数学科・応用数学科から2名参加している。5月22日(月)に都立産技高専 荒川キャンパスで、3月29日(金)、30日(土)には福井高専で会議を行った。
・4E,3M,2M,F2クラスの共同制作で、2024年数学カレンダーを作成した。

【物理】
・1年生物理基礎では、成績不振者向けの補習を9回実施し、のべ218名が参加した。一部のクラスでスタディサプリを用いた指導を行った。
・2年生物理ではMicrosoft Formsを利用した小テスト行うなどオンラインツールの活用を行った。Web Classの導入は見送った。
・3年生は夏季休業中の総復習を実施し、知識の定着を図った。
・4年生応用物理IIIについて、学生実験において老朽化していた電気素量測定装置3台を更新した。あわせて、電気素量の測定についてテキストの見直しと、課題提出方法をプレゼンテーション方式に変更した。

【地学】降雨により、福井県の嶺北と嶺南の交通遮断が複数回発生した。その気象学的発生要因と対応について言及した。

【化学・生物】
・化学について、授業中の問題、課題に対して学生同士で相談、教えあう時間を設け、理解の向上を図った。板書を取ることが遅れてしまう学生や、ノート作成が苦手な学生に対して、前期中間以降ノートプリントを配布するようにした。成績が振るわない学生に対しては、試験前の補習(10~20名参加)や、別途プリント課題を設けた。
・生物について、章ごとに振り返りの課題を設け、理解の定着を図った。また、講義に映像を使うことで興味の促進を図り、最新の論文や研究の話題を発信することで学生の研究に対する興味や、目標が持てるように促した。

【国語】
・2年生は手紙の書き方、4年生はキャリア教育の一環で自己PRの書き方を指導した。また、4,5年生は希望に応じてエントリーシートや志望動機文、面接の指導を行った。本年度は2,3年生のクラス代表による弁論(ディベート)大会が実施された。その一環としてクラスでディベートの授業を行った。また、校友会誌の発行にあたり、4年生以下の全クラスで作品の選定を行った。全学年を通してペア・グループワークを積極的に行い、活動を通して俯瞰力および語彙力の涵養を図った。

【社会】
・年間を通じてカリキュラムの実施について大きな問題は起こっていない。今後とも到達目標や学習事項、レベル設定、教科書に関する教員間の議論を継続し、今後の実施に向けた議論を継続する。
・1年の授業が終わり、工学倫理WGにおいて成績評価、成績エビデンスの共有等について議論が進められた。
・改訂版モデルコアカリキュラムについても、社会科学科目の対応状況について確認を行った。来年度実施の1年生分から実施・振り返りを行なっていきたい。

令和5年度 年度計画
(高専名： 福井工業高等専門学校)

令和5年度年度計画 実績報告
(高専名： 福井工業高等専門学校)

【英語】
 ・英語によるコミュニケーション能力を育成するため、基本的な言語知識の習得と実践的な英語運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。
 ・低学年においては、基礎的な文法・表現学習・理工英語学習・一般的なトピックによるコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。そのために、WebClassやスタディサプリなどのICTツールを積極的に活用する。
 ・高学年、専攻科においては、TOEIC等の資格試験の学習を含め、より実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語学習や海外に対する興味を喚起するための支援を積極的に行う。

【体育】
 ・1～3学年の体育実技では、今年度からスポーツ科学演習を取り入れる。演習では、各学年ごとにスポーツや健康に関する知識に応じた課題を与え、学生自身が主体的に課題に取り組むように促す。
 ・1学年の保健や4年生のショートレクチャー(生活習慣病予防)では、学習内容を身近な話題と関連付け、実践(行動)につながるような理解を深めるとともに、自己の健康・体力課題の抽出とその対策を考察するレポートを通じて、課題解決のための主体的な学びを促す。

【専攻科】
 ・一昨年度改正した専攻科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーならびに単位互換に関する規定の周知徹底と検証を行う。また、本科と協調して、入試体制の再整備及び教学マネジメント体制の整備を進める。

【創造教育開発センター】
 ・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しおよび実施を行う。
 ・PROGテストの継続的な実施により、キャリア支援へ繋げる。
 ・Webシラバス、ルーブリック、WebClassの有効活用および、アクティブラーニング、遠隔授業、ICT教育、CBT、BYOD実施などの教育実践に関して、教員への情報提供・教育改善・環境整備を行う。
 ・数理データサイエンス教育の実施案を検討し、学際領域カリキュラムへの導入について検討する。
 ・授業評価アンケートのフィードバックも含め、教学アセスメント実施方針に示されたデータの検証方法および教育改善へつなぐ方法の検討。
 ・創造教育開発センターとして支援が必要な学生に対する指導方法などを含めたFDのあり方について検討する。

②
 ・R4年度自己点検・評価報告書を作成し本校HP上に掲載する。
 ・学校教育法第109条第1項に基づく基準・点検項目の設定と反映について検討を行う(教育の改善と質の向上)。

③ー1
 ・4年生の学際科目のひとつである「プロジェクト演習」の内容を充実させる。
 ・ビジネスアイデアコンテストやガリレオコンテストを主催し、学生のアイデア創出の機会を提供する。
 ・一昨年度から引き続き、本科と共同して福井県協働プロジェクト「未来協働プラットフォームふくい推進事業(福井版PBL支援分)」の支援を受け、課題解決型学習(PBL)を推進する。特に専攻科「創造デザイン演習」では、地元企業から課題の提示を受け、その課題の解決を実践する。

【英語】
 ・基本的な言語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行った。低学年においては、基本的な文法・表現演習、理工英語学習および理工系のトピックを含めた様々な話題を対象にコミュニケーション活動を行った。また、WebClassを用いて基本的な文法項目の演習課題を取り入れた。高学年においては、TOEIC対策演習や英語プレゼンテーション演習を行い、実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行った。

【体育】
 ・前期は1～4年生にそれぞれ演習課題(自己の歩行・走行能力、バランス能力評価)を課した。学年の違いに関わらず、自分のデータ(記録)に対して、しっかりと考察をすることができていた。概ね評価の高い学生が多かった。
 ・1～3年生は着衣泳の授業を実施し、水難事故にあった際の自分の身を守る術を学習した。

【専攻科】
 ・一昨年度改正した専攻科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及び単位互換に関する規定変更について専攻科関連のウェブサイト及び専攻科ガイダンスを通じて周知徹底を図っている。
 ・教学アセスメントポリシーについては、本科と併せて関連ウェブサイトで周知されている。
 ・入試体制の再整備については、令和8年度専攻科入学者選抜学力検査の英語の評価方法を改めることを4月に決定し、福井高専のウェブサイトに掲載して周知を図った。

【創造教育開発センター】
 ・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しおよび実施を行い、回答率が16.1%から27.2%へ向上した。
 ・PROGテストの継続的な実施により、キャリア支援へ繋げるために、今年度から共同開催とした。
 ・Webシラバス、ルーブリック、WebClassの有効活用および、アクティブラーニング、遠隔授業、ICT教育、CBT、BYOD実施などの教育実践に関して、教員への情報提供・教育改善・環境整備を行った。
 ・数理データサイエンス教育の実施案を検討し、学際領域カリキュラムへの導入について検討し、令和6年度入学生より実施する。
 ・授業評価アンケートのフィードバックも含め、教学アセスメント実施方針に示されたデータの検証方法および教育改善へつなぐ方法の検討を行い、授業アンケート結果の集計および成績との相関を確認した。
 ・創造教育開発センターとして支援が必要な学生に対する指導方法などを含めたFDのあり方については、検討中である。

②
 ・R4年度自己点検・評価報告書を作成を完了し、7月に本校HP上に掲載済みである。
 ・本校における学校教育法第109条第1項に基づく基準・点検項目は適切であり、現段階で特に大きな問題はないと判断している。

③ー1
 ・4年生の学際科目のひとつである「プロジェクト演習」の内容を充実させるために、教員間の打ち合わせを4回実施した。さらに、「プロジェクト演習」の授業において、Teamsを活用した授業を進め、県内の企業のエンジニア10名に最終発表に出席してもらい、学生にアドバイスをしてもらい、交流の機会を得た。また、学生にはビジネスアイデアコンテストへの参加を促した。
 ・今年のビジネスアイデアコンテストには、昨年を大きく上回る13件のエントリーがあり、書類審査を通過した10チームが本選に進み、9月30日に最終審査を実施した。自主探究型学習の先進校を視察し、次年度以降のガリレオコンテストやビジネスアイデアコンテストの改善を検討した。
 ・ガリレオコンテストは応募のあった7件全てが採択され、12月には最終報告会を実施し、審査の結果、最優秀賞1件、優秀賞1件を表彰した。
 ・一昨年度から引き続き、本科と共同して福井県協働プロジェクト「未来協働プラットフォームふくい推進事業(福井版PBL支援分)」の支援を受け、課題解決型学習(PBL)を推進している。特に、専攻科「創造デザイン演習」では、複数年に跨るようなやや複雑な課題について、地元連携企業2社に加えて今年度から参加することになった地元自治体からも提示いただき、深化した課題解決を実践した。10月には協働企業2社と自治体とを訪問し、現地で課題の説明を受けた。中間報告会及び最終報告会には連携企業と自治体にも会場にお越しいただき、評価をいただいた。当該科目の成果は、10月の北陸信越工学教育協会シンポジウムおよび11月の本校主催のフォーラムにおいて、いずれも専攻科生が発表を行った。

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>③ー2 ・本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業に依頼して企業現場における課題を本校のPBL課題として取り上げ、企業の担当者と連携しながら学生の教育に取り組む。 ・地域連携アカデミアの会員企業に学生のインターンシップの国内外での受け入れを依頼する。インターンシップの取り組み事例はインターンシップ報告書、報告会にて取りまとめる。</p>	<p>③ー2 ・専攻科1年生のインターンシップでは、32名の1年生のうち、アカデミア会員企業11社に13名の学生を派遣し、企業の実務を体験させることができた。 ・専攻科の創造デザイン演習では、アカデミア会員企業からはベルテクス株式会社、また地元企業からは明城ファーム株式会社、行政からは鯖江市役所に参画頂き、32名の学生が「防災・減災」、「農工連携」および「自治体」からPBLの課題を頂いて課題解決に取り組んだ。</p>
<p>③ー3 ・今年度も引き続き福井県警察と連携を図り、福井高専からサイバーセキュリティ犯罪テクニカルアドバイザーとしてコミットする。 ・今年度から新規にサイバーセキュリティ犯罪テクニカルアドバイザー加わった仁愛大学の教員とも情報交換を行う。 ・情報交換により得られた情報のうち、情報秘守に該当しないベストプラクティスのような件については、授業や学生主事団会議などで共有する。</p>	<p>③ー3 ・総合情報処理センター長が、サイバー犯罪テクニカルアドバイザーとして専攻科学生1名をサイバーセキュリティボランティアとして推薦し、福井県警より任命された。サイバー犯罪の捜査の困難さは引き続き5年生の情報ネットワークの授業で学生に伝える。</p>
<p>④ ・長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力するとともに、有機的な連携を推進していく。</p>	<p>④ ・教務主事が連携推進教員として就任し、実務担当者会議に継続的に出席した。</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等 ① ・学内・学外の関係各所と協働して学生支援にあたる。 ・学外カウンセラーに加え、学内カウンセラーを新たに配置し、カウンセリング体制を拡充する。 ・スクールソーシャルワーカーを配置し、学生を多面的に支援する。 ・学外におけるメンタルヘルス関係の研修会に教職員を積極的に派遣するとともに、学内においては教職員向け講演会および学生対応に関するワークショップを企画するなどして、学生支援に関する情報や方策を共有し、教職員の資質向上に努める。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 ① ・該当学生の保護者、クラス担任、保健室および関係各所(学生課)、学外機関などと協働して学生支援にあたった。 ・学内カウンセラーが週4回来校し、学内の相談室員、保健室と連携し学生、保護者、教職員に対する相談業務にあたった。 ・スクールソーシャルワーカーが週1回来校し、学内のみならず学外の対応業務にあたった。 ・福井県特別支援教育センター主催「特別支援コーディネーター研修会」(年4回)、福井工業大学主催「障害学習支援と就労移行に関する情報交換会」(9月4日)、「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会」(9月7日オンライン)に学生相談室員がそれぞれ2名参加、令和5年度「障害学生支援に関するテーマ別セミナー(オンライン)」に6名参加し、自己の研鑽に努めた。学内では仙台高専カウンセラー濱中ミオ氏を講師に迎え、「学生支援に関する特別講演」(9月14日)を開催し、教職員の資質向上を図った。</p>
<p>② ・奨学金制度について、学校全体の情報共有を図るとともに、学生や保護者に向けた適切な情報提供に努め、より円滑に運用をする。 ・各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、ホームページや掲示板などのメディアを活用して、学生により効率的に提供する。</p>	<p>② ・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板(電子掲示板を含む)で周知するとともに担任を経由して学生に情報を提供した。 ・日本学生支援機構奨学生は前期給付奨学生が43名、後期給付奨学生が45名(一次申請までの暫定分)、貸与奨学生が10名、他貸与奨学生が5名、その他の奨学生は22名であった。また、入学料免除許可者はなし、前期授業料免除対象者は、全額免除が18名、2/3免除が14名、1/3免除が11名であった。後期授業料免除対象者は、全額免除が延べ18名、2/3免除が延べ15名、1/3免除が延べ13名であった。 ・卓越した学生については後期分の全額免除は本科生1名、専攻科生1名の計2名であった。</p>
<p>③ ・低学年から高学年まで、学年毎に先輩講座(卒業生による進路決定までの道筋を例示)などのキャリアガイダンスを実施し、学年進行に応じたキャリア形成を行う。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報はキャリア支援室にて統括する。就職、進学の主な相談先である本科学級担任、専攻科専攻主任間、さらにキャリア支援室の連携を図るため、キャリア支援委員会、各学年会会議などを活用する。 ・キャリア教育セミナー(合同企業説明会)、専攻科・大学・大学院合同説明会を開催する。その際、卒業生に登壇を依頼する。 ・本科4年生、専攻科1年生向けにインターンシップ事前講座、就職対策講座を実施する。 ・女子学生向けのキャリア形成講習会を実施する。 ・本校卒業生同窓会(進和会)との連携体勢を維持し、卒業生による先輩講座を実施するとともに、在校生による先輩フォーラムを開催する。 ・高専キャリアサポートシステム「学内進路支援サイト」に全国高専に対する就職、進学の情報、さらに校内ネットワークの「進路情報フォルダ」内に本校向け求人票や帰校届などの情報が提供されていることを全学生に周知して利用を促す。特に「進路情報フォルダ」の内容はキャリア支援室で随時更新を行う。</p>	<p>③ ・本科1年生:5月18日に教務主事と共同でキャリアガイダンス(本校における進路決定までのキャリア支援等について)を行った。また、1月18日に産業・職業研究セミナーを開催した。本科2年生:6月22日にキャリアガイダンス(先輩講座)を実施した。講師は本校同窓会(進和会)に推薦していただいた。また、12月14日には先輩フォーラムとして、学科毎に5年生と専攻科生による進路決定までの体験談を伝える講座を開催した。4年生、専攻科1年生:7月13日に開催予定であったインターンシップ事前講座が大雨による休講により中止となったため、オンデマンド配信に切り替えて各クラスで特別活動時間に実施した。また、夏季休業期間において4年生、専攻科1年生のほぼすべてがインターンシップを行うことができた。さらに、2月22日に就職対策講座を開催した。本科3年生以上:8月9日に進学希望者向け説明会を実施した。参加者は3年生14名、4年生19名。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報はキャリア支援室で総括している。キャリア支援委員会や各学年会を通じて、本科学級担任、専攻科専攻主任と連携して進路指導に当たった。 ・専攻科・大学・大学院合同説明会を10月7日にオンライン形式で実施した。本科3、4年生、専攻科進学予定の5年生及び専攻科1年生を対象としてキャリア教育セミナーを12月9日に対面形式で開催した。当日、感染症罹患学生多数の1クラスが学級閉鎖のため不参加であったが、1月13日に学外で開催された高専生向け合同企業説明会にクラス全員で参加した。 ・本科、専攻科の女子学生を対象として、7月19日にキャリア形成のためのメーク講座を実施した(受講者11名)。 ・高専キャリアサポートシステム「学内進路支援サイト」、校内ネットワークの「進路情報フォルダ」が順調に利用されている。</p>

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業等との共同研究の成果などについて、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」をはじめ、本校ホームページや外部メディアなどに積極的に発信する。本校の地域連携に関する活動、教育研究シーズ集を取りまとめた冊子「JOINT」を作成し、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。 ・テクノセンターのホームページを随時見直し、より広く地域社会に発信する。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備などについて情報共有を進める。 	<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月13日に本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を開催し、教職員のシーズや共同研究の発表、企業ニーズの発表、学生の発表等、併せて35件のポスター発表が行われた。また、異業種交流会も併せて活発な意見交換が行われた。 ・地域連携テクノセンターのHPを見直し、見やすくする改善に取り組んだ。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、情報共有を行った。また、次年度に福井高専が主管する専攻科研究フォーラムについて2月28日に意見交換を行った。
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の企業との共同研究の掘り起こしのために、本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」を活用する。 ・毎年12月に行っている本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」においてその成果の一部を積極的に学外発信する。 ・越前市・鯖江市が催す産業フェア、北陸技術交流テクノフェアにおいて、本校の活動を広く発信する。 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JOINTフォーラムでは本校で実施している研究活動、地域連携事例の発表を行った。また、教職員の研究シーズ、企業紹介ポスター、専攻科1年の「創造デザイン演習」に関する成果報告、ジュニアドクター育成塾成果報告、ビジネスアイデアコンテスト優秀アイデアについても発表し、アカデミア会員企業との共同研究の掘り起こしを行うことができた。 ・9月9日、10日、サンドーム福井において開催された越前ものづくりフェスタでは、サイエンスクラブと放送・メディア研究会がそれぞれ参加し、本校の科学系クラブ活動の成果を広く発信することができた。 ・10月19日、20日、福井県産業会館にて開催された北陸技術交流テクノフェアでは、専攻科生の研究シーズを発表した。 ・RAの査読を通して、R6年度の科研費の採択件数は10件となり継続の17件と合わせると27件が採択された。これは、RAの査読の効果が大きいと言える。
<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道関係者との関係構築に取り組む。 ・地域コミュニティFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続ける。また、地方誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供する。 ・本校が関係するイベントやニュースを、窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達する。 ・SNSを活用した情報発信を進めるとともに、動画サイトを活用した広報活動を行う。 	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアイデアコンテストやジュニアドクター育成塾の実施にあたり、報道関係各局(福井新聞社、こしの都ネットワーク(旧丹南ケーブルテレビ)、日本経済新聞社等)を周り取材依頼した。 ・ビジネスアイデアコンテストの実施にあたり、共催のKDDI株式会社と協働してマスコミ各社に取材協力依頼を行った。 ・地域コミュニティFMでの高専独自番組を継続している。 ・本校が関係するイベントやニュースを、窓口を一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達した。 ・学校の公式YouTubeチャンネルを開設し、各学科の紹介動画を開設した。【再掲】
<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を年末に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する。 ・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて社会に発信する。 	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「JOINTフォーラム」を開催し、教職員のシーズや共同研究の発表、企業ニーズの発表、学生の発表等、併せて35件のポスター発表が行われ155名が参加した。また、異業種交流会も併せて活発な意見交換が行われた。 ・地域連携の取り組みは、テクノセンターのHPにて積極的に公開した。
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部と連携し、校長のリーダーシップの下、一高専として出来得る国際交流支援に取り組む。 	<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年3月の本校シンガポール研修においてナンヤンポリテクニクの学生との文化交流プログラムを実施、今後の協定締結にむけてさらなる交流を深めていくことで合意した。その他、他高専と連携しながらシンガポールポリテクとのより一層積極的な国際交流について模索している。
<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル高専との連携・支援策を模索する。 	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他高専と連携しながらモンゴル高専との連携を模索している。2024年度中には交流検討のためモンゴル各高専を訪問予定である。 ・モンゴル高専と連携している先進校を視察した。
<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ高専との連携・支援を積極的に模索する。 	<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ高専との連携・支援策を模索する。 ・2023年11月に本校教員3名、2024年3月に本校教員2名がタイ国プリンスオブソクラ大学工学部プーケットキャンパスを訪問し協定締結を視野に入れた今後の積極的な交流について前向きに検討していくことで同意した。【再掲】
<p>①-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム高専との連携・支援策を模索する。 	<p>①-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム高専との連携・支援策を模索する。 ・ベトナムには専攻科海外インターンシップとして、3社に3名の学生を派遣した。

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>①-5 ・法人本部の国際化への取組に積極的に参加する。</p>	<p>①-5 ・法人本部より推薦依頼のあったJETRO「テック系理系学生人材シリコンバレー派遣プログラム」に3名が応募した。</p>
<p>② ・法人本部の国際化への取組に積極的に参加する。【再掲】 ・ISATE2023への教員の積極的な参加を働きかける。</p>	<p>② ・法人本部より推薦依頼のあったJETRO「テック系理系学生人材シリコンバレー派遣プログラム」に3名が応募した。【再掲】 ・ISATE2023に本校より3名の教員が参加し3件の発表を行った。</p>
<p>③-1 ・法人本部の国際化への取組に積極的に参加する。【再掲】 ・海外の教育機関との交流を推進する。 ・海外インターンシップ等による学生の交流・研修の充実を図る。 ・様々なコミュニケーションツールを利用した各種海外研修プログラムの充実を図る。</p>	<p>③-1 ・2023年8月に、シンガポールのポリテクに教員を派遣した。 ・2023年11月に本校教員3名、2024年3月に本校教員2名がタイ国プリンスオブソンクラ大学工学部プーケットキャンパスを訪問し協定締結を視野に入れた今後の積極的な交流について前向きに検討していくことで同意した。【再掲】 ・法人本部より推薦依頼のあったJETRO「テック系理系学生人材シリコンバレー派遣プログラム」に3名が応募した。【再掲】 ・8月に本校専攻科1年生3名がベトナムにて約一か月のインターンシップを修了した。 ・2024年3月24日から3月30日にかけて本校希望学生23名が参加するシンガポール研修プログラムを実施した。 ・2024年3月の本校シンガポール研修においてナンヤンポリテクニクの学生との文化交流プログラムを実施、今後の協定締結にむけてさらなる交流を深めていくことで合意した。【再掲】</p>
<p>③-2 ・TOEICや英検へのチャレンジを支援する。とくに、本科4年生全員に対しTOEICの受検機会を提供する。 ・海外の教育機関との交流を推進する。【再掲】 ・国際寮等を積極的に活用し、イングリッシュカフェ(英語科と共同開催)や交流会、報告会などを実施する。</p>	<p>③-2 ・5月に本科4年生全員に対しTOEICIPを行った。 ・11月に前期に海外留学・インターンシップを経験した学生の海外活動報告会を全学生および全教職員を対象に実施した。【再掲】 ・2024年3月の本校シンガポール研修においてナンヤンポリテクニクの学生との文化交流プログラムを実施、今後の協定締結にむけてさらなる交流を深めていくことで合意した。【再掲】 ・2023年11月に本校教員3名、2024年3月に本校教員2名がタイ国プリンスオブソンクラ大学工学部プーケットキャンパスを訪問し協定締結を視野に入れた今後の積極的な交流について前向きに検討していくことで同意した。【再掲】</p>
<p>③-3 ・トビタテ！留学JAPANへの応募を積極的に働きかける。【再掲】 ・学生のISTS2023への参加を積極的に促す。【再掲】</p>	<p>③-3 ・本科3年生がトビタテ！留学JAPANに採用され9月に米国シリコンバレーにて約一か月間の研修を行った。【再掲】</p>
<p>④-1 ・外国人留学生の受入を推進するため、以下の取組を実施する。 ・国際的な広報活動として、本校ホームページの英語版の作成を進める。【再掲】</p>	<p>④-1 ・「理念・教育目標」、「3つのポリシー」、「学科、専攻科」については英語版ページを既に公開しており、今後は更なる充実を図っていく。【再掲】 ・外国人留学生との懇談会を開催し鯖江市国際交流協会等を通じた広報活動を行った【再掲】。</p>
<p>④-2 ・当該留学生の受入に協力できるように学内の調整を図っていく。</p>	<p>④-2 ・2028年にKOSEN KMUTTから留学生を受け入れることとし、校内で周知した。</p>
<p>⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行う。</p>	<p>⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行った。 ・海外渡航時危機発生後の対応決定フローチャートを精査した。</p>

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <p>・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <p>・「令和5年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な経費配分として61件15,000千円を配分した。</p>
<p>2. 3 契約の適正化</p> <p>・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性の確保を図る。</p> <p>・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。</p>	<p>2. 3 契約の適正化</p> <p>・一般競争契約は、物品20件及び役務3件を実施し、仕様策定等により競争性や透明性の向上を図った。なお、うち12件は高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業によるものであった。</p> <p>・共同調達2件を実施し、一層のコスト削減、効率化を図った。なお、うち1件は高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業によるものであった。</p> <p>・防災設備保全業務について、一般競争入札を実施した。</p> <p>・令和5年度補正事業: 寄宿舎(東寮)改修の決定通知に基づき、「福井工業高専寄宿舎改修設計業務」の簡易公募型プロポーザルを実施し、業者を決定した。</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>・「令和5年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な経費配分として61件15,000千円を配分した。【再掲】</p>
<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>・研究環境の実態を調査して研究をより推進するための改善策を検討する。</p> <p>・外部資金獲得を増加させるために申請を支援する取り組み(公募情報の案内、申請書作成の講習会、申請書の査読、共同研究の斡旋)を行う。</p> <p>・研究力を高めるために機構本部のプログラムを活用する。</p> <p>・インターネットを利用した研究成果の情報発信を促進する。</p> <p>・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数の増加に引き続き努力し、寄附金のさらなる獲得につなげる。</p> <p>・3名の専門分野の異なるリサーチアドミニストレーターとの連携を深め、教職員の保有する教育研究シーズの把握、活用し共同研究等を推進するとともに、公募型の競争的資金に挑戦する。</p> <p>・県が推進する未来協働プラットフォームふくい推進事業に積極的に応募し、外部資金の獲得を図る。</p> <p>・令和4年度に寄附増進方策として制定した福井工業高等専門学校基金規則で定める寄附の趣旨・手続きに関し、卒業生が就職した企業や同窓会等に案内を行うほか、広く周知に努める。</p>	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>・外部資金獲得を増加させるために申請を支援する取り組みとして、5月31日に「教育学での科研費申請」のテーマで教員3名、6月16日に「採択される科研費申請のノウハウ」のテーマで外部講師1名、7月11日に「他機関と連携した外部資金の申請」のテーマで教員2名を講師とした研修会を行った。</p> <p>・科研費の査読を推進させるために、査読実施者への研究費補助を制度化した。</p> <p>・自己収入の増加に資するよう、研究成果発表および論文投稿への補助を制度化した。</p> <p>・機構本部が運営する「高専機構産学連携活動サイト」の紹介や、機構本部から届く外部資金情報のメール配信によって、教員に対して研究や産学連携に関する情報提供を行った。</p> <p>・外部資金の公募情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行った。また、産学連携担当RAが学内教職員のシーズと展開について調査を実施し、研究推進担当RAが関係する教職員へ個別に連絡を取ることで申請に向けた取り組みを行った。共同研究掘り起こしのため、産学連携担当RAが9月と10月にアカデミア会員企業訪問を実施し、得られた技術課題について本校教職員との橋渡しを行った。</p> <p>・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数が増加し、121社となった。</p> <p>・県が推進する未来協働プラットフォームふくい推進事業に積極的に応募し、5件の外部資金を獲得した。また、同事業で推進するリスクリングプログラムでも2件の外部資金を獲得した。</p> <p>・令和4年度に寄附増進方策として制定した高専基金及び寄附の手続きに関し、同窓会(進和会)のイベントの際にて案内を行うほか、ホームページ等で広く周知に努めた。</p> <p>・寄附増進方策として、手続きが簡便となる方法を検討した。</p>
<p>7. 剰余金の使途</p> <p>決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生への充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。</p>	<p>7. 剰余金の使途</p> <p>・決算時点での剰余金はない。</p>
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①ー1</p> <p>・「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」(令和3年3月決定予定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、福井高専における高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について、計画的に予算要求を行う。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①ー1</p> <p>・高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について年次計画に基づき、令和6年度施設整備概算要求事項として令和5年6月に、1位要求: 東寮改修、2位要求: 基幹・環境整備(擁壁安全対策)、3位要求: 電子情報工学科改修を提出し、東寮改修の決定通知に基づき対応を進めた。</p> <p>・令和5年度補正事業: 寄宿舎(東寮)改修の決定通知に基づき、「福井工業高専寄宿舎改修設計業務」の建設コンサルタント委員会を開催し、令和6年3月に業者を決定し、実施設計を進めている。</p>

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>①ー2 ・建物外壁及び工作物の非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、立入禁止等の処置を行い、早期に補修を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。</p>	<p>①ー2 ・令和5年8月に南寮3階寮室より外壁からの漏水報告があり現地調査を実施したところ、一部外壁タイルに浮きがあることが判明した。落下の恐れがある位置を立入禁止措置とした。 同年9月には、外壁タイル補修及び漏水補修工事を完了した。 ・令和5年11月に第二体育館外壁ALC壁劣化により漏水し内側よりALC片が体育室床に落下し、約3ヶ月間第二体育館を使用禁止とした。その間に外壁・内壁の補修及び落下防止ネットの設置工事を実施し、第二体育館の使用を再開した。体育室屋根防水が経年劣化により漏水の恐れがあるため、その後屋根防水改修工事を実施した。</p>
<p>② ・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付する。安全衛生管理のための各種研修の充実を図る。</p>	<p>② ・当初は安全衛生必携の学生への配付を予定していたが、本部からの配付が終了したため、年度当初における学生に対する実験実習ガイダンスでの説明を強化した。具体的には令和6年度からの安全衛生規則改定に対応し、保護具着用とその効果を説明事項に加えた。教職員については、研修動画を作成し、全員に対して安全衛生研修を課した。</p>
<p>③ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。【再掲】</p>	<p>③ ・女性教職員の要望に基づき、順次女子トイレの和式便器を様式便器に改修する計画としている。令和5年度は、専攻科3階女子トイレの和式便器1箇所を洋式便器に改修した。 ・同居支援プログラムにより、本年度に電気電子工学科教授1名を受け入れている。【再掲】</p>
<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、以下のような外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。 ・課外活動指導員と外部コーチの制度を併用し、指導教員B制度とともに活用することで、指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援する。 ・退職や再雇用となった元教員の日直業務従事制度(希望制)により、現職教員の業務従事回数の軽減と効率化が継続的に実現している。この制度を本年度も実施する。 ・日直業務の外部委託(本校元事務職員従事)制度試行を本年度も継続する。 ・働き方改革の有力な方策として、多様な宿日直業務の在り方(例、年齢や各種事情による業務配慮や女性教員の宿日直業務従事等)の慎重な検討と試行計画を立てる。</p>	<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施した。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、以下のような外部人材やアウトソーシング等の活用を図った。 ・部活動、同好会活動の実態調査を行い、部活動の精査(整理)を行うとともに、顧問の再配置などを行うことで、教員の負担軽減を推進している。 ・今年度は、課外活動指導員は0名、外部コーチは8名である。この制度を活用し、学内の指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援している。 ・日直業務の外部委託(本校元教職員従事)制度試行継続については、計画通りに3名の日直教員を外部委託制度で任用し、本年度内に合計19日の業務委託を行った。宿直業務についても働き方改革の観点等から外部委託制度を後期より試行形式で導入し、外部委託による従事者が計8名、委託回数は合計80回を実施し、本校教員の業務効率化(軽減)ができた。</p>
<p>② ・長期的な視野をもって、戦略的かつ弾力的な教員配置を検討する。 ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。</p>	<p>② ・特例流用の活用により、退職者の生じる学科の早期人員補充を実施し、退職教員の在任中に新任教員が業務を直接引き継ぎできる体制を以前から保持している。 ・高専・両技科大間の交流制度について、令和5年度は学内希望者がいなかったが、教員の資質向上に有益であると考えており、今後も交流制度の利用を校内で推進したい。 ・同居支援プログラムによる人事交流で、教授1名を受入れ、教育研究体制の充実を図った。</p>
<p>③ ・標準人員枠に対し、特例流用を活用することにより若手教員を確保し、人材の長期育成を図る。</p>	<p>③ ・特例流用の活用により、退職者の生じる学科の早期人員補充を実施し、退職教員の在任中に新任教員が業務を直接引き継ぎできる体制を以前から保持している。 ・特例流用を積極的に活用することにより、若手教員が主となる助教の枠を増やし、人材の長期的視野での育成を可能なものとしている。</p>
<p>④ー1 ・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】</p>	<p>④ー1 ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領の中に「博士の学位を有する者」という項目を掲げている。令和5年度は、専門科目について機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の教員公募を実施している。【再掲】</p>
<p>④ー2 ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、クロスアポイントメント制度の利用について、本校の教員人員枠を確認しながら検討をすすめる。【再掲】</p>	<p>④ー2 ・クロスアポイントメントは人員枠を活用することから、教員人事に関する委員会にて各学科、教室に周知し、昇任、採用と同時に検討を実施している。令和6年度の人事計画の調査において、クロスアポイントメントについても改めて周知を図った。【再掲】</p>

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校)</p>
<p>(2)人員に関する指標 ・常勤教職員について、各種研修などを利用し、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。 ・令和3年度から学内で勉強会や講習等を開催してRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を推進したが、今年度も継続して事務の効率化に努める。</p>	<p>(2)人員に関する指標 ・令和5年度は、各種研修会に積極的に教職員を参加させ知識修得及び資質向上を図った。 <教育職員> ・令和5年度高等専門学校新任教員研修会に教員4名が参加した(令和5年5月以降オンライン及び集合計式(令和5年5月22日～23日)で実施)。 ・令和5年度高等専門学校中堅職員研修に教員2名が参加した(令和5年10月16日～17日)。 ・令和5年度高等専門学校教員研修会(管理職研修)に教員1名が参加した(令和6年3月11日～3月29日 オンデマンド)。 ・令和5年度女性教員管理職育成研修に教員1名が参加した(令和6年3月21日 オンライン)。 <事務職員・技術職員> ・令和5年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修に事務部長1名が参加した(令和5年6月8日 金沢大学)。 ・令和5年度東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校技術職員研修会に技術職員2名が参加した(令和5年8月30日～9月1日 福井高専 主管)。 ・令和5年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建設・環境系)に技術職員1名が参加した(令和5年8月29日～31日 石川高専 主管 長岡技術科学大学で開催)。 ・令和5年度第2四半期 総務省情報システム統一研修 e-ラーニング「AIRテラシー」に技術職員1名が参加した(令和5年7月24日 オンライン)。 ・令和5年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に技術職員1名が参加した(令和5年10月30日～31日 福井大学)。 ・令和5年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員2名が参加した(令和5年11月9日 富山大学)。 ・若手事務職員を対象に令和5年度第1回福井高専事務職員研修を企画・実施し、8名が参加した(令和5年8月23日 本校開催 内容はグループ討議・発表)。 ・事務職員を対象に令和5年度第2回福井高専事務職員研修を企画・実施し、総務課長、事務職員4名が参加した(令和6年2月27日～29日 茨城、福島高専を訪問、討議等)。 人員配置について、各部署において業務量の把握、効率化を図りつつ、研修等での職務能力向上を加味し適正なものとなるよう努めている。 RPAについて、昨年に引き続き事務情報化推進室により、学内で操作方法等の研修会が実施されている。既に財務会計システム月次決算の作成作業の一部等にRPAが導入されているが、今後、財務会計システム、高専共通システム関係業務をRPAにより効率化することで、本校事務部、高専機構全体等での効率化への展開が期待できる。</p>
<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ・高専統一ネットワーク更改工事に伴う認証システムの入れ替えにより、M365システムのパスワードと学習支援システムのパスワードを統一化すること。これによりパスワード管理の負担を軽減し、利便性の向上を図る。 ・新パスワードポリシーの適用を年度中に実施し、上記施策と合わせほぼすべてのシステムで長いパスワードが使われることにより、パスワードは一つになったがセキュリティ強度は増大することになる。 ・新入生への情報処理センター長講話の機会を設け1年生にも、すぐやる3か条、インシデント発生時の緊急連絡先の周知を実施する。 ・転入教職員に対しても同様に講話の中でセキュリティに関する意識付けに加え、すぐやる3か条、インシデント発生時の緊急連絡先の周知を実施する。</p>	<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて ・新一年生に対して入学直後での講演では、特にID/パスワード管理の重要性を指導した。 ・新任教職員の学内システムの利用に際し、情報セキュリティに関する意識づけを徹底するとともにすぐやる三ヶ条について周知した。 ・M365と学内システムとのパスワード統合は実施完了で、利便性は向上された。 ・教職員学生ともパスワードの16文字対応を実施して、セキュリティの向上を実現した。</p>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 ・校長のリーダーシップのもと、学校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的な会議開催を行う。</p>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 ・令和5年度4月から3月までの間に40回の運営連絡会を実施した。このことにより、学校としての意思決定の迅速化を図った。</p>
<p>①-2 ・学校運営会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図ると共に、学校としての課題や方針の共有化を図る。</p>	<p>①-2 ・定期的に学校運営会議を開催(4月から3月までの間に16回)し、学校としての課題や方針の共有化を図った。また、教員会議を開催(4月から3月までの間に14回)し、全教員に対して意識共有の場を設け、有効に活用した。</p>
<p>①-3 ・本校の学校運営及び教育活動等の特徴を活かし、魅力の創出を諮ると共に、各種会議を通じてその情報の共有化を図る。</p>	<p>①-3 ・3年目となる福井高専ジュニアドクター育成塾(クラブテックラボ)は全校を上げての取組であり、学校運営会議はもちろん学内の各種会議を通じて情報共有化を図った。</p>

<p style="text-align: center;">令和5年度 年度計画 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度年度計画 実績報告 (高専名： 福井工業高等専門学校)</p>
<p>②-1 ・学校として、法人全体の共通課題に対応する。</p>	<p>②-1 ・法人全体に係る共通課題については、学校運営会議等において議論され、学校としてのマネジメント対応に努めた。また、教員会議の資料を電子データ(PDF)化し情報共有を実施している。</p>
<p>②-2 ・コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を図る。</p>	<p>②-2 ・コンプライアンス・マニュアルを常時共有ファイルで閲覧できるようにし、教職員個々人のコンプライアンスの向上に努めている。また、2月に実施したコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して意識向上を図った。</p>
<p>②-3 ・法人本部と学校との十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。</p>	<p>②-3 ・各事案に応じて、法人本部との速やかな情報共有を行いながら、対応にあたった。</p>
<p>③ ・内部監査等で発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。 ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況を維持する。</p>	<p>③ ・令和4年11月に受検した情報セキュリティ監査での指摘事項については、令和5年度において令和4年度情報セキュリティ監査フォローアップ要領に基づき対応した。 ・令和5年12月に、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めることとした。内部監査等で発見した課題については、関係者で情報を共有し、解決を図った。 ・令和5年度高専相互会計内部監査について、令和5年12月19日に徳山工業高等専門学校の監査を受け、あわせて両校との情報共有を行い、会計事務関係等の情報交換を行った。</p>
<p>④ ・教職員のコンプライアンス意識涵養のために講習会や注意喚起を行う。 ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。</p>	<p>④ ・全教職員を対象としたコンプライアンス講習会として、機構本部から配信されている「公的研究費の不正使用の再発防止」に向けた内容の録画視聴を行い(期間:令和5年8月10日~9月11日)、併せて「理解度チェックのためのアンケート」を実施した。 ・財務系職員の研修会として、令和6年1月24日に高専機構本部により開催された「会計監査人によるコンプライアンス講習会」を受講し、公的研究費の管理、公的研究費不正防止に関すること等を学んだ。</p>
<p>⑤ ・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の年度計画を定め、本校の管理運営、教育研究を実施する。また、副校長、校長補佐、各種委員会委員長は、年度当初の教員会議にて年度計画等の所信表明を行い、本年度の活動方針を全教員で共有する。</p>	<p>⑤ ・年度当初の教員会議において、年度計画を示し周知を図った。</p>